ご挨拶

社団法人 兵庫県建築士会
姫路支部長
西田 清

社団法人 兵庫県建築士会 姫路支部は、平成19年、設立50周年を迎えました。

一口に50年と申しますが、支部が設立されましたのは、昭和32年ですが、振り返ってみますと、その頃の姫路市は、昭和30年に大手前通りが開通し、34年には民衆駅と地下街が完成していますから、32年となれば、まさに戦後の新しい姫路の顔づくりの真っ只中にあったといえましょう。

当時の大手前通りの写真を見てみますと、ただ広いだけの歯の抜けたような通りに、2〜3のビルがポツリ、ポツリと寂しげに建っており、その前に4〜5mの銀杏（いちょう）の苗木が街路樹として植えられていました。

ところが、今、姫路は、お城が世界文化遺産となり、駅は高架駅として再構築の真っ只中で、当時建設された民衆駅は解体が目前となっています。

大手前通りの街路樹は、後（のち）に植えられたクスの木と共に大きく育ち、木々の緑が、歩道を覆い、埋め尽くされた周辺のビルを圧倒する様（さま）でもあります。

一体、当時の誰が50年後、今の姫路の状況を想像し得たでしょうか。

50年は、このように予想を超えた未来を迎える程、長い歳月に他なりません。

その長い歳月に亘り、支部の揺籃期から青年期、そして、現在の壮年期に至る期間、諸先輩におかれましては、その時代、その時々の課題を克服され、現在の支部に育てて来られました。

そのご尽力、ご努力に対し、ここに深く感謝申し上げ、敬意を表します。

そして心から厚くお礼申し上げますとともに、身の引きしまる思いで新たな一歩を踏み出す決意でおります。

さて、今、私たち姫路支部の活動は、会員相互による建築談義、技術講習会等を開き自己研鑽に努めながら、各地区での「まちづくり」には積極的に参加して、地域の活性化に幾ばくかの成果を上げ、地域の皆様に喜んで頂いてもおります。

また、年一度ではありますが、子供たちの建築への関心を高めるため、小学生を対象とした「建築子供プログラム」の実施や、著名な建築家による文化講演会を開催する等、ささやかながら中播磨圏域での建築文化の向上に努めております。

昨年度（平成18年度）からは、新たに、耐震強度偽装事件に端を発した建築不信にかかる、市民の皆様のお困りの問題に、姫路市の市民相談の一環として、「建築相談の日」を開設し、建築相談に応じております。

本年度は、50周年の記念事業の一つとして、姫路のまちが世界文化遺産、姫路城と共に、永久（とわ）に輝くことを願い、また、市民の皆さんの「まちづくりへの関心」を喚起することを目的に「姫路城を望むおもてなし空間」をテーマに、都市デザイン競技「文化の香り高いまちづくりに向けて」を実施いたしました。

お陰をもちまして、こうした、私達のいずれの活動も皆様に受け入れていただき、私たちは心満ちた喜びを感じているところでありますが、一方では、ここのところ、会員の減少傾向に歯止めがかからず、活動継続への危機を感じているところでもあります。

しかしながら、私たちの活動が今日まで続けてこられたことは、関係機関を含め、皆様方の温かいご支援ご協力の賜物であり、今後とも、皆様のご期待を裏切ることのないよう、また、今日の日を築き上げていただいた諸先輩のご努力を無駄にすることのないよう、社会に役立つ建築士会として、活動は是非とも継続して参りたいと決意いたしております。

微力ながらも、社会貢献を目標とした、こうした活動は、継続することに意義があり、継続することによってのみ、偽装問題で失われた信頼の回復に繋がり、延いては、建築士の社会的地位の向上に繋がるものと確信しております。

諸先輩をはじめ、皆様方におかれましては、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

開式のことば

創立50周年記念事業
実行委員長
渡邊 一洋

ご列席の皆様に謹んでごあいさつ申し上げます。本日、ここに、多数の関係各界のご来賓の方々、友好団体関係の代表様、本部会長様、近隣支部の代表様をお招きして、社団法人 兵庫県建築士会 姫路支部は、創立50周年記念を迎えることができました。

これもひとえに、ご臨席の方々を始めとする多くの方々の格別のご支援、ならびに諸先輩各位のたゆまざる努力の賜物と、心より感謝を申し上げる次第でございます。

さて、建築業界を取り巻く情勢は、必ずしも好いとは言えない状態が続いております。建築業界は、その厳しい情勢に立ち向かい、建て直しの努力の最中に、昨今の構造計算偽装・建築材料検査偽装まで生じる有り様でございます。このことに対して、世情の建築界への評価は、“先行きの見えない経済情勢の中で、更に不審と不安を与える諸悪の根源である”という厳しい論評までされました。

諸先輩方を始めとして、関連の多くの方々により、共に永年ともに築き挙げてこられた信用や信頼が、一気に失墜してしまうような出来事でございました。

このような激変する社会環境の中、我が建築士会は、設立趣旨の一つであります社会貢献の分野で、『今…何ができ、今…何が求められ、そして今…何をしていくべきか』が問われていると思われます。

この度の創立50周年記念事業の内容は、そのようなことを念頭におきながら、建築士会姫路支部の仲間と共に、幾度となく会合を持ち、検討を重ねて参りました。

その事業内容は、この後に開催致します、記念シンポジウムや祝賀会の中で、ご紹介や発表をさせて頂きますが、この記念事業を繋ぐキーワードは、『【夢ある姫路（まち）】に向けて…』でございます。

姫路について歌われております歌の中で、「さとう宗幸」さんが作詞・作曲され、姫路市役所本庁でも、昼休みに流れております【夢ある姫路（まち）】の中に…『あなたと居れば…♪倖せ♪が…あふれてきそうな…♪夢♪ある姫路（まち）…お城の上から…声をはずませ…指さす♪人♪の…♪笑顔♪うるわしく…あゝ…ふるさとに生きてゆく…♪街♪を見つめ…♪お城♪を見つめ…♪心♪を見つめ…♪時♪は♪かがやき♪…』と、あります。

この『♪倖せ♪夢♪人♪街♪お城♪心♪時♪かがやき♪』の言霊（ことだま）を念頭に置きながら、この姫路を訪れて下さる方々、お一人おひとりに『おもてなし』の気持ちを忘れずに、市民の方々と共に『【夢ある姫路（まち）】をつくっていこう!』が合言葉でございます。

我々建築士会姫路支部の仲間は、この合言葉を胸に、ご来賓の方々、諸先輩の皆様のご支援、ご協力を得ながら、今後も一歩一歩進めて参りたいと考えております。

本日より、また次の10年に向かい、新しいスタートにつくわけでございますが、諸先輩方が築き上げてこられました精神を忘れることなく、精進していく所存でございます。

今後も倍旧のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げ、そしてこの創立50周年記念事業が、建築士会姫路支部にとって有意義なものとなりますことを祈念致しまして、開式のことばとさせていただきます。